

寒いのだ。

ガタ／＼ドタバタ昂奮して僕は荒れ狂ふ。

観音經をやる、唱歌を唄ふ。

署長や女の悪口を言ふ。

幾度打つ斃れて眠つて目が覺めても、夜は中々明けない。

四邊は眞暗だ。

布團を入れてくれたのは一週間目か、十日目頃だった。

巡査が二人掛かりで、恐々錠前を外して、不意に布團を押し込んで行つたのだ。

格子の向ふの板壁の木目が見える晝の間が三十分位で、僕は夜ばかりの生活を送つたやうな気がする。

提灯をかざされると、目がクラ／＼とする。

三個の握りめしに、赤いケヅリかまぼこか梅干かあられやほしひや大豆の煎つたのを投げ込んで呉れる。